岩手高校創立者三田義正

盛岡市先人記念館　千田　順一

1　生まれと学業

（1）生まれ

1861年（文久元年）４月２１日生

盛岡藩士　三田　義魏　・　キヨ　の長男（四男三女）

弟：俊次郎は岩手医大、岩手女子高校を創設

父は明治維新後警察官となる

盛岡市加賀野磧（かわら）町で育つ

（2）母親

母・三田キヨは稗貫郡八重畑村の郷士の娘

無学であったが、教育熱心

勤倹力行の人　　物を無駄にせず、倹約。

キヨ個人の育英事業‥積錙（せきし）育英会

（3）学ぶ

藩校作人舘　⇒　鍛冶町学校（現・城南小）

1875（明治8）　宮城英語学校（仙台中学校）　先輩　冨田小一郎のあとを追った

1878（明治11）　上京　学農社に入学

津田仙のもとで農業を学ぶ

「津田先生との師弟関係は父子の情愛のごとく」

（4）帰郷

1882（明治15）　帰郷し県役人となる

勧業世話係・準判任御用係

【冨田小一郎：教育者】
・教え子に米内光政、石川啄木、金田一京助、など多数
・盛岡女子商業学校（現・盛岡市立高校）創設
・三田義正とは生涯親友としての交誼を結んだ
・先人記念館顕彰先人

2　事業及び政治活動

（1）　事業を起こす

1882（明治15）友人らとともに各種の事業を起こした

興産社‥製糖事業　⇒　明治16年県職員を退職し　個人で製糖販売事業を手掛ける

養立社‥植林事業　⇒　明治30年に社長に就任

果樹協会‥果樹栽培　‥明治17年に設立

（2）政治活動

1886（明治19）　加賀野村村会議員　　25歳

1887（明治20）　岩手県会議員

1889（明治22）　盛岡市会議員　‥　盛岡市制始まる

1890（明治23）

第1回衆院議員選挙に中原貞七を担ぎ出して応援

中原は落選し、多額の資金援助をした義正は大きな痛手を負った

⇒　これが政治活動から身を引き、事業に専念する契機となった

（3）火薬販売業

1894（明治27）　「三田火薬販売所」を開設

盛岡市加賀野川留稲荷近く

家屋敷と火薬販売の商権を譲ってくれる話に応じた

資金は母が飯岡の田畑を処分して得た蓄えがもとになった

・狩猟用火薬、爆薬販売、導火線製造販売

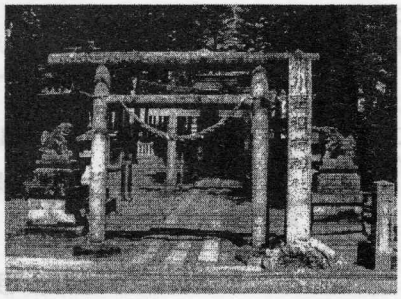
「三田火薬販売所」

↓

明治33　内丸に移転「三田火薬販売所」

↓

昭和4「三田商店」



3　事業の苦労と発展

（1）　爆発事故

1898（明治31）　導火線工場の爆発　死者1名　負傷者3名

川留稲荷神社も類焼‥　恐懼して社殿を再建した

（2）積載船の撃沈

1904（明治37）　火薬積載船が津軽海峡で、ロシア船に撃沈された　2万円の損害

※現在の貨幣価値で1億4000万円

すぐに再び爆薬を発注し、顧客から絶大の信用を得る

「千番に一番の果断」

（3）活況

・日清戦争、日露戦争による火薬販売

・鉱山開発による爆薬（ダイナマイト）販売

1899（明治32）　函館に支店第1号開設　地元業者から経営譲渡された

三田キヨが店務監督（明治35年～大正9年）を務めた

鉄道敷設など北海道開発に爆薬の需要

（4）鉱山爆薬で財を築く

第1次世界大戦でダイナマイトの輸入がとまり、販売業者の買占め競争も起こった

価格は高騰し4倍に　→　全国の三田商店で活況　2ヶ月で数千箱を売った

「三田商店は盤石の備えを固めた」

その後　カーバイド、ガラス、セメント、石油など経営の多角化を進めた

4　人材育成

（1）　岩手育英会

1898（明治31）　三田義正、三田俊次郎（弟）、三浦直道（俊次郎の妻の弟）、富田小一郎の四人で創設

会員は一人毎月50銭以上5年間又は一時に20円の出資 当面は発起人4人が一人毎月2円の出資 資金を積み立て5年後に貸費生

会計担当：富田小一郎

1990（明治33）　第1回貸費生　　鈴木卓苗　当時第二高等学校　（のち岩手高校の初代校長）

毎月8円の貸費

（2）　私立盛岡商業学校の設立支援

1995（明治38）　　富田小一郎　私立盛岡商業学校の設立を目指す

資金作りの相談を三田義正に　「できるだけの応援はするから、農業でも何でも君がやって資金をつくっては‥」

1997年（明治40）　三立（さんりゅう）漁業合資会社

社長：三田義正　　常務：富田小一郎　加工：斎藤源五郎

気仙地方で漁業に取り組んだが失敗　4年後に廃業

盛岡商業学校（現：盛岡商業高校）は地元財界人の手で設立、富田は初代校長に迎えられた

（3）　岩手中学校の設立

1921（大正10）ごろ　私立中学校の創設を関壮二（県学務課長）に相談

関は5万円案、7万円案、10万円案の三案を提示

周囲の者は　その程度の資金では無理との見解　　1926（大正15）　学校創設を断念　　関にその旨を伝えるが帰宅途中に翻意

「硬教育を主義校風とする学校を」

同年　　2月11日　三田邸にて　理事を集めて岩手中学校創立総会　知人とともに

関壮二、鏡保之助（盛岡高等農林校長）、北田親氏（ちかうじ）（盛岡市長）

3月31日　申請　財団法人三田奨学会　岩手中学校

4月19日　認可

4月22日　入学式　新入生106名

大沢川原（現　岩手女子高校の地）に開校

現在地（長田町）移転は昭和13年

ア　校舎使用許可に苦労

県の建物（女子師範附属小）を借用予定が許可に反対の声→許可が遅れた
入学式‥県物産陳列所　　入学式後１ヶ月間‥尋常小分校教室で授業

イ　校地・校舎を買い取る
「借用期間５年間　満期後５年間延長」の契約
借用３年目　県「返還か買い取りを」　　⇒　今後を考え６万円で買い取った

ウ　校名は岩手中学校
＜案＞
「第二中学」‥盛岡２番目の中学校として
「三田中学校」‥三田義正創設の学校として
三田義正は売名行為になるいことを拒んだ　→　新聞は三田義正を讃える論調を掲載した

エ　初代校長に鈴木卓苗
鈴木卓苗‥栃木師範学校の校長
三田義正の熱意と私立学校への魅力　郷土へのご奉公の気持ちで承諾
教師と生徒との交流が多く持てるように課外授業、授業を多くもった
学校の基盤を整えた（三大綱領、校旗、校章、校歌）

オ　新渡戸稲造の講演
昭和２年10月５日　演題「創設校としての特色を樹立せよ」
三田義正が百難を排し学校を創設した先駆の精神を称揚
「フロンティアスピリットをもって進んでほしい」と教職員、生徒へ
講演後　揮毫　「憂国」

カ　校舎の移転
1938（昭和13）　長田町へ移転し校舎を新築
設計は葛西萬司
講堂は「東北一の偉容」
校舎は昭和52年に焼失　講堂のみ残った

【葛西萬司：建築家】
・盛岡市出身の近代建築の先駆者
・辰野金吾とともに辰野葛西事務所を開いた
・主な建築に東京駅、岩手銀行元中ノ橋支店、旧両国国技館、旧盛岡劇場など
・先人記念館顕彰先人

キ　中学校建設は少年時代からの希望
1878（明治11）仙台中学校時代　新聞に投稿
「中学校のない県は一日も早く設置すべき。そうすれば人材が輩出して県ばかりではなく国を富まし、西洋に負けないほどの国にきっとなる‥」

ク　輩出した人材の中に　村上昭夫

1945（昭和20）卒　詩人　村上昭夫
詩集『動物哀歌』　土井晩翠賞　H氏賞を受賞
結核により40歳で早逝
盛岡市先人記念館顕彰先人

５　街づくり

（１）　南部家からの払い下げ

現在の菜園地区は南部家所有の土地（野菜畑、薬草地）　　田園が広がっていた
２万６千坪
南部家「田んぼも全部一括で買い取るなら払い下げてもよい」
＜必要な膨大な資金＞
池野三次郎は本家（木津屋）の池野藤兵衛に相談　「自分の力だけでは‥」
池野三次郎と池野藤兵衛は三田義正に相談　⇒　三田の全面協力
三田義正はかねてから都市開発を望んでいた

（２）　街づくりの構想

開運橋から岩手公園へ幹線道路
道路沿いに商店街、その周辺に住宅街

（3） 南部土地株式会社

1927（昭和2） 南部土地株式会社設立 資本金100万円

取締役社長：三田義正

常務取締役：池野三次郎

銀行「三田氏が印を押すならいくらでも融資する」 資金繰りがつく

（4） 埋め立て開発

1928（昭和3）埋め立て工事開始 砂利は中津川落合から採取し機関車で運んだ

1924（昭和4）幹線道路の完成 古川端～御田屋清水 （大通）

大沢川原～仁王 （映画館通）

アスファルト舗装をし、市道として寄付

1930（昭和5）5月末 工事完了

大通一丁目（サンビル附近）に1戸、三丁目（mossビル角附近）に9戸の貸店舗

（5） 分譲の難航

1929（昭和4） 分譲開始 売れ行き不振

当時はいくらでも借家があり、マイホームという気運はなかった

旅館や商店を誘致／住宅の月賦販売をして営業

（6） 統一名称は菜園に

1931（昭和6） 議案「会社経営地総称名選定の件」

「菜園」と決定

菜園地区の町名は「高砂町」「鶴舞町」「亀楽町」「老松町」「梅ケ枝」など謡曲からとっためでたいものに

（7） 街並み整う

街路灯47基、幹線二路線はアスファルト舗装、銀杏並木

（8） 映画館通

義正「都市にふさわしく 映画館、喫茶店を」

1935（昭和10） 4月着工 8月完成 中央映画劇場となる

その後 第一東宝劇場 中央ホール 開業 ⇒ 映画館通が形作られた

「当初公園下の予定でしたが、現在の中劇の場所にして非常によかったと思います。」（池野三次郎）

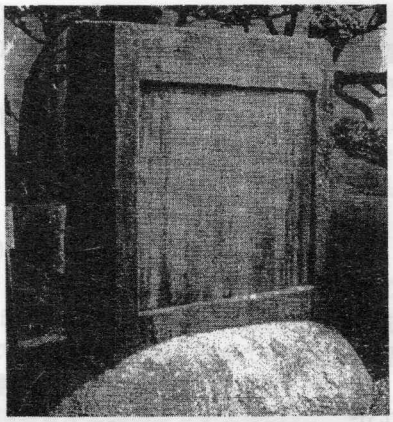
（9） 開町之碑

1941（昭和16） 開町10周年 記念事業として開町之碑を御田屋清水に設置

御田屋清水は旧藩主の飲料水、お茶の水汲みどころ

鶴ヶ池のほとりにあった

菜園開発で鶴ヶ池は埋め立てられた。御田屋清水は外観工事を行って現在の姿となった。設計は橋本八百二



此ノ地ハモト盛岡城ノ外区、旧藩侯ノ菜園ナリ。明治以後全市ノ中心ニ当リ、久シク隴畝ヲ存セルヲ以テ、市勢ノ発展ヲ阻害スルコト尠カラス。故三田義正翁之ヲ憂ヘ、昭和二年同志ト共ニ南部土地株式会社ヲ設立シ、専ラ其ノ開発ヲ図レリ。

翌三年工ヲ起シ、先ツ北上川ノ土砂ヲ利用シテ埋立ヲ行ヒ、次イテ道路屋舎ノ建設ヲ事トス。

略

此事ヲ石表ニ載セ、以テ後代ニ記念ス

昭和十六年十一月三日

菜園町会

6 終焉

1935（昭和10）12月31日 死去 75歳

菩提寺 久昌寺に墓碑